



長谷川香料株式会社新社屋外観

長谷川香料株式会社は、日本の香料産業の創成期である明治36年に香料を取り扱う個人商店として創業。その後、昭和23年には法人組織となり、日本経済の復興とともに業績を拡大させてきた総合香料メーカーです。同社は2016年4月、中央区日本橋に地上8階建て、延べ床面積4,045㎡の新本社社屋を建設しました。

駐車設備には、日精の水平循環方式「フレキシブルパーク」を導入することで、敷地内の限られた空間に最適なレイアウトを実現。ハイルフ車にも対応した駐車スペースを確保することができました。さらに、ターンプールの内蔵で、よりスピーディーな入出庫も可能に。ユーザーの利便性と快適性を追求する日精は、最先端のパークングシステムを提供することで、これからも新しい時代のニーズにお応えしてまいります。



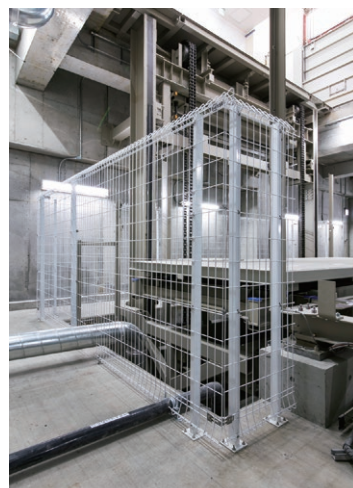
乗り込みロスペースオートドア開閉時



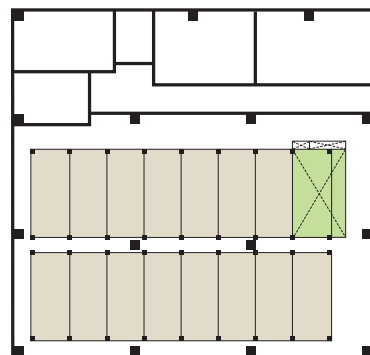
間口を広く取ることで、バリアフリーの通路幅を確保



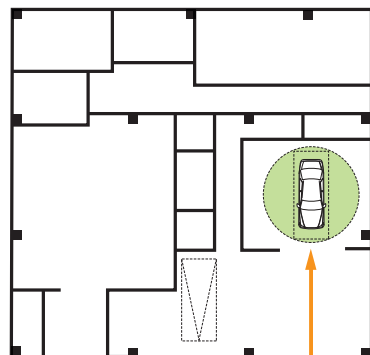
昇降リフト



リフト周りに安全柵を設置



据付階平面図



乗込階平面図

- 【建築概要・規模】
- 建築主／長谷川香料株式会社
 - 延床面積／4,045㎡
 - 構造規模／地上8階、地下1階
 - 設計・監理／浅井謙建築研究所株式会社
 - 施工／東急建設株式会社首都圏建築支店
- 【駐車設備概要】
- 機種／フレキシブルパーク(水平循環方式)
 - 型式／FLX1LSWRH1-14(1)FDHT-BN1

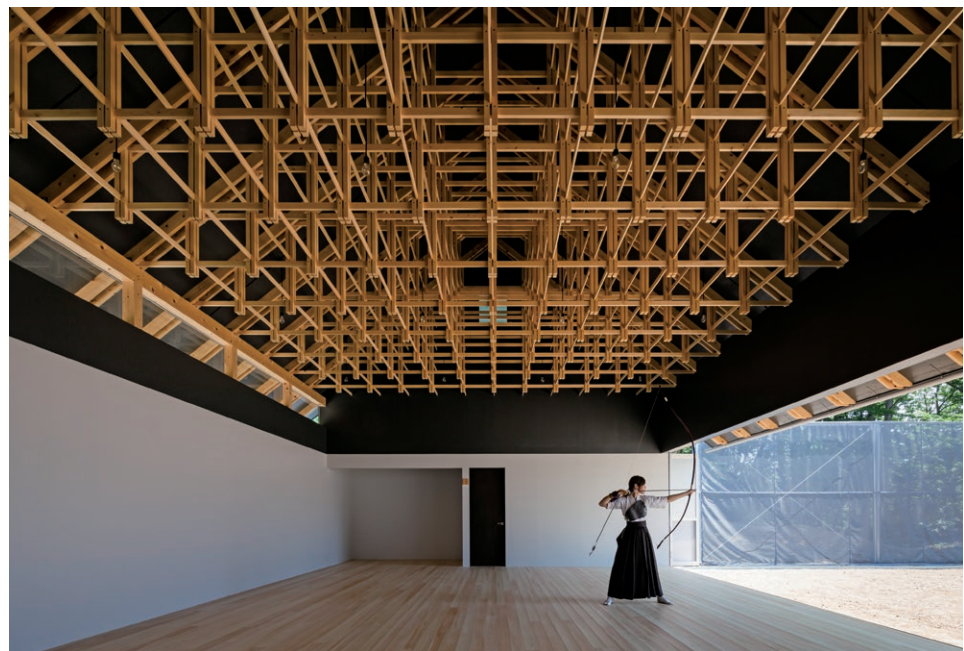
長谷川香料株式会社

機械式駐車設備 ● 納入事例

歴史を学ぶことで現在をデザインする

これまで、ものづくりの前提となる社会の既成概念を深く考えてきました。そのためには、歴史を勉強することがとても有効です。この2つの建築

は、一つは古い寺社建築、もう一つは伝統的な民家の形式を参考にしています。歴史を学ぶことは回顧主義に陥りがちですが、そうならないためには、歴史的なものの見た目だけでなく、そこで用いられている技術や素材と、その時代背景などを丁寧に調べる必要があります。そうすると、歴史的なものが現代のデザインに再利用することができるようになるのです。



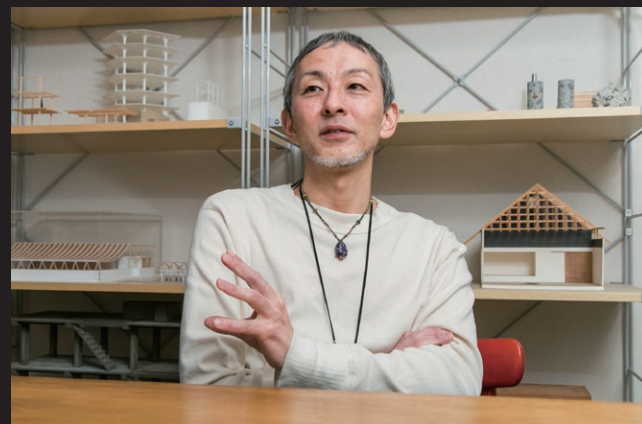
工学院大学弓道場 撮影：小川重雄

最近、埼玉県本庄市にある120年前の倉庫の保存と活用の計画に携わっています。日本に現存する煉瓦の組石造建築としてはとても良いもので、屋根は木造で当時の最新技術であるトラス構造が用いられています。120年前の煉瓦とトラスを工学的に再評価し、耐震補強をして保存しながら新しい機能を与えて現代に活用するというこのプロジェクトは、私にとって新しいチャレンジになると思っています。

機械式駐車場の技術力の高さをもっとアピールすべき！

機械式駐車場は、一般のユーザーにはそのすごさがよくわからないですね。この技術の高さが見えないことは、機械式駐車場にとってとてももったいないことだと思います。機械的仕組みを見せたほうが絶対にいい。メディアでのアピールや、空

間の作り方かもしれませんが、たぶんメーカーの方が思われているよりも10倍ぐらいファンが生まれると思います。タワー式駐車場も、タワー自体の外皮に凝るのではなく、その中身の技術力の高さをもっとアピールしてみたらいいと思います。



福島 加津也 Katsuya FUKUSHIMA

1968年、神奈川県生まれ。1990年、武蔵工業大学(現東京都市大学)工学部建築学科卒業。1993年、東京芸術大学大学院美術研究科建築学専攻修士課程修了。1994～2002年、伊東豊雄建築設計事務所勤務。2003年～、福島加津也+富永祥子建築設計事務所。2014年～、東京都市大学工学部建築学科講師。

主な受賞

2004年、日本建築家協会JIA新人賞。2004年、グッドデザイン賞。2007年、住宅建築賞金賞。2013年、日本建築学会著作賞。2014年、International Architecture Award。2015年、日本建築学会賞(作品)。

主な作品

「中国木材名古屋事業所」、「e-HOUSE」、「柱と床」、「木の構築 工学院大学弓道場・ボクシング場」、「光の小屋」、「四つの柱」。